



推進員の集い



年公開講演会



年末お磨き



三条別院お取越報恩講



有縁講



音市場



2025年後半
記録写真



発行日 令和八年一月一日 第四六六号

じょうきょうじ 浄敬寺だより



【法語】

前々住上人、御法談已後、仰せられ候う。四、五人の御兄弟へ仰せられ候う。「四、五人の衆、意巧にきく物なり。能く能く談合すべき」の由、仰せられ候う。

『蓮如上人御一代記聞書』一二〇
『真宗聖典』第二版一〇五〇 四八七七項

【意訳と解説】

前々上人（蓮如上人）が御法話をされた後、四つ五人の御兄弟（ともに本願念佛の教えを聞くお仲間）にお話されました。「四つ五人が集まって、寄り合って話し合いをしなさい。必ず、五人は五人それぞれに、自分に都合よく聞いているものです。よくよく、話し合いなさい」と、お話をされました。

蓮如上人は御講を通して、沢山の方に布教をされました。

『講』で大事なのは、仏法聴聞した内容をそれぞれが語り合うことでした。長時間に及ぶ聴聞や談合、その場で心を許して語り合うことの手助けに、お齋が用意されるようになつたのでしよう。親鸞聖人は、先祖供養のために念佛をしない理由を「一切の有情は世々生々の父母兄弟なり」と言わると唯円さんは聞き取られ、「歎異抄」の中に記されています。同じ釜の飯をいただきながら、仏法を語りあう関係は最早「兄弟」…ということで、蓮如上人は御門弟や御同行を「御兄弟」と表現されています。淨敬寺の定例会、『歎異抄をよむ会』の後にも坊守が準備する茶話会があります。寄り合い談合いたしましょう。



★巻頭法話☆

御門徒、有縁の皆様に謹んで新春のお喜びを申し上げます。

廊下に掛けられた新しい日暦の厚さは一年の長さを感じさせますが、年末になつて段々薄くなつてくる日暦はまた一年の経過の速さを感じさせます。法要などでよく話させていただくことは、日暦一枚一枚には私たちの毎日と同じ重さがあるのではないかということです。毎日忘れずにめくっていくということは簡単なようで簡単ではありません。ふと気がつけば何日分もまとめて捨ててしまうような自分がいるのです。命を輝かせながら日々大切に生きているのかと反省させられます。

毎年十二月には年末法話会ということで、県内の僧侶からおいでいただき、お話を聞きしてきましたが、昨年の年末は、長岡赤十字病院の緩和ケア病棟の佐藤直子医師をお迎えして「自分らしく行きたい 自分らしく逝きたい 素敵な最期の迎え方」 という講題でお話をお聞きしました。その時の閉会の挨拶でも話させていただいたのですが、お寺でこのようなお話を聞く場を持つことには若干抵抗がありましたが、三年前の十一月に私が大学時代から大変お世話になつた二歳年上のご住職が骨髄異形症候群

という血液のガンで急逝なさつたということがあり、死ということについて改めて考えさせられたこともあります。そういうことは仏教の教えでもあります。藤医師をお迎えすることとしました。人間は死を免れないといふことは佛教の教えでもあります。そのような命をいかに自分らしく生き、そして終えていくか、そのためのケアをしていくのが緩和ケアの目的だとお聞きしました。印象に残った言葉に「死向力を高める」ということがありました。「死を迎える過程で自分の大切なものを手放さなければならぬとき自分にとって本当に大切なものは何かを知る『死を考えることはタブーではない 死を考えることで『大切な人・大切なもの・大切な気持ち』を再確認してあらためて大切にしようと思える死を真剣に見つめることで自分の本心に気づくことができる」「死を学ぶ 死から学ぶ そしてそこから生を学ぶ」これらの言葉の数々はまさに佛教の死生観に通じることであつて納得させられるものでした。とは言え、日めくりカレンダーさえも毎日めくれない生き方をしていては自分の人生を終えていけるのだろうかと考えてもします。私たちが毎日お勤めする正信偈の後にいただくの御和讃に「弥陀成仏このかたは いまに十劫をへたまえり 法身の光輪きわもなく 世の眞實をてらすなり」と

あります。仏様は自分のような凡夫でもずっと救い続けてきてくださっている、そして必ず浄土に迎えてくださっている、というお心があるので、今更ながら聞法の大切さを痛感させられます。今年も一年、寺がそういう場所であるよう努力して参りますので共に聴聞して参りましょう。

合掌

(住職)



☆庫裡便り

淨敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎総代・世話人会について

昨年九月に、住職・坊守と同世代で地域でもご活躍された総代様が命終されました。また、十月には寺の行事や旅行等にも何度か参加してくださった世話人様が命終されました。長年の寺へのご尽力に心より感謝申し上げます。

後任をご承諾いただいたお二人には、春の総代・世話人会議へのご出席をお願いしました。よろしくお願ひ申し上げます。

◎庫裡改修工事について

庫裡改修工事（リノベーション）が終わり、お陰様で大変便利に使わせていただいております。募材三年計画の最後の年になりますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。年末の公開講演会は七十名程の方からお集りいただきましたが、庫裡を会場に寒さを感じずに入場することができました。

3

◎名工小川由廣さんのライオン像移設について

前号でも紹介しましたが、新潟日報や柏崎日報でも掲載された「ライオン像の移設プロジェクト（クラウドファンディング）」が春口敏栄さんの呼びかけで行われています。制作者の小川由廣さん、ライオン像の所有者だった方、それを相続された方も淨敬寺ご門徒だったという数々のご縁があり、淨敬寺でお受けすることになりました。市内では三番目に大きいライオン像がどのように境内に設置されるのか、お話を聞きながら楽しみにしています。

◎寺のお斎

秋彼岸に糸ウリの「ま和え」を久し振りに作りました。糸ウリは三杯酢や煮付け、漬け物など、精進料理には欠かせない食材です。大根を干し、たくわん漬けも出来ました。台所スタッフの協力をいただきながら、今年も伝統の味を伝えるお斎を作りたいと思っています。



☆――〇――五年後半を振り返つて

◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話
住職

住職からの法話に続き、勤行、お斎がありました。住職からの法話要旨です。

お正信偈の最初に「帰命無量寿如来」とお勤めしますが、これは無量寿如来に帰命してください、という意味があります。無量とは有量の反対、量ること

段、計らいの世界、即ち量ることが出来る世界で生きてています。これに対して人間の量ることの出来ない世界、阿弥陀の世界に目覚めてください、というのが正信偈の初めに書かれています。彼岸とは、自分の思いでしか生きられない娑婆世界から、自分の思いでは量ることの出来ない仏の願いの世界、浄土の世界に気づかせていただく大切な時間をいただくご縁ではないでしょうか。

お彼岸のお中日は春分の日・秋分の日の祝日です。十時半からの法話で、お申込みは不要です。ぜひお参りください。

◎音市場（十月十九日）

浄敬寺では、サックス三重奏、和太鼓二団体、クラシックピアノの四団体・奏者のステージがありました。毎年秋に開催される音市場は、フリー・パスのチケットを購入し、市内十数か所の会場で音楽を楽しむことができます。今から三年半前に還淨された淨敬寺御門徒の石川眞理子さんが大切に関わって来られ、すつかり柏崎に定着したイベントです。運當に携わっておられる方からもよくお聞きしますが、来られた和太鼓のグループの方々は、石川さんに大なつたとのことで、浄敬寺で演奏することの緊張感てくださいました。



◎三条別院お取り越し報恩講団体参拝（十一月七日）

淨敬寺からは七名の方からお申込みいただき、第
十組（市部）にて団体参拝を行いました。午前中の
お日中法要を参詣した後、お斎、慶讚法要前の特別
企画の『教行信証』坂東本の解説、沙加戸弘先生の
御法話をお聞きした後、寺泊の魚の市場経由で帰路
につきました。昨年から復活した三条別院伝統のお
斎：いかがでしたでしょうか。



◎有緣講（十一月十一～十二日）

紅葉と好天の十一月、五名で有縁講に参加させていただきました。途中、柿崎にある淨福寺（本願寺派）様を参拝させていただきました。

親鸞聖人様御染筆の「川越九字名号」で有名な歴史ある御寺院です。その後、居多ヶ浜記念堂を参拝して片葉の葦を探し、赤倉木テルへ。勤行、ご法話の後温泉に浸かり、一年の疲れを癒しました。翌日はお朝事の勤行とご法話の後、楽しみなリンゴ狩りと、昼食バイキングで料理研究。秋の一泊二日の旅です。次回は皆様も是非ご参加下さい。

◎年末公開講演会（十二月七日） 講師 佐藤直子 医師

「自分らしく生きたい　自分らしく逝きたい

「素敵な最期の迎え方」

「ガンの診断は、私たちがこれまでいかに生きることが重要か、

そんな風に考えていた人生を突如にして死に向かつてどのように人生を終えるべきかという思考に変化させる劇的なライフイベントである。」そして「無限に感じられていた人生が、有限なものであつたと気づかされる」という衝撃的なお話から始まつた講演会でした。ガンは治せる時代になつたとは言え、二人に一人がガン

◎淨敬寺推進員懇親会（十二月一十日）

ンになる時代だとも言われます。有限な命をいただいていることを知つていながらそのことから目をそらして生きている私たちが、どのような人生を送つていくべきなのか。緩和ケアという、普段考えもしない医療分野の話でしたが、終末期においては約七十%の患者で意思決定が不可能になるといわれます。それだけに、緩和ケアは終末期だけに提供されるものではなく、またガン患者だけに限つたものでもなく、早期からの提供されることが自分のためでもあり、自分の大切な人のためもあるとお聞きしました。患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて患者の価値観を明らかにし、これから治療・ケアの目標や選考を明確にするプロセスであるアドバンス・ケア・プランニング（ACP人生会議）という話もありました。

人生の最後にどう在りたいか。だれもが大切なことだと分かっていますが、なんとなく縁起でもないからという理由で避けていのが私たちです。緩和ケアという医療分野の視点から、私たちがどう生きるのか、どう人生をしめくつしていくのか、お話をいたきましたが、仏教の教えをいただく私どもにとつても同様に考えていかなければならぬ貴重なお話をいたいたことでした。最後に佐藤先生からいただいた資料の中から心に残つたお言葉を照会させていただきます。



「死を学ぶ 死から学ぶ

そしてそこから 生を学ぶ」

「死を見つめることは

どう生きるか見つめること」

「人は 生きてきたように 死んでいく」

「最後の時をどう過ごすのか どう生きてていきたいのか

大切な人と相談しながら

一日一日を思いつきり 生きてほしい」

（住職・記）

定例会の一案内

☆おでらヨガ…（ミニ法話×ヨガ）

参加者個人のペースを尊重したゆつたりヨガです。

・毎月第三または第四月曜日午前十時～約一時間

・参加費 千円

・インストラクター 砂長谷真梨子さん

・ミニ法話 深坊守

★定例法話会…『歎異抄』をよむ会（シーズンⅡ）ご案内
昨年は第八章までを解説しました。新年は第九章からのスタートです。途中からのご参加でも一緒に学べます。ご都合に合わせてぜひご参加ください。

・基本的に第二土曜日午前九時より

・内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め
(終了後、ささやかな茶話会あり)

・持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』のテキスト



第十組（柏崎刈羽地区）では、三年に一度のペースで真宗講座が開催されます。真宗の教えを基本から聞ける講座ですので、ぜひご受講ください。

第十一組（柏崎刈羽地区）では、三年に一度のペースで真宗講座が開催されます。真宗の教えを基本から聞ける講座ですので、ぜひご受講ください。

★一〇一六年前半の行事予定（参加お申込み不要）

【一月】

一日 修正会勤行 午前六時より本堂にて
一～二日 年始参

*真宗門徒の一年は御本尊のお参りから始めましょう

十七日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

一九日（月）おでらヨガ 午前九時より

【二月】

十四日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より
一六日（月）おでらヨガ 午前九時より

【三月】

七日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十四日（土）第十組同朋会報恩講 於産業文化会館

*法話 真城 義麿 氏

（今治市善照寺住職・元大谷中学校・高等学校校長）

*参詣については別途ご案内いたします。合唱団としてご参加いただける方を随時募集しております。

一六日（月）おでらヨガ 午前九時より

十七～二十三日 春彼岸

*お中日：一～十日（金・春分の日）
午前十時半～法話・勤行・お斎

【四月】

十一日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

二十日（月）柏刈同朋の会 法話会

二十七日（月）おでらヨガ 午前九時より

【五月】

九日（土）報恩講お引き上げ準備会 午後一時より
*仏具のお磨き・境内清掃 等にご協力ください
十九日（火）報恩講お引き上げ 午前十時より
*法話 今泉 温資 師（新潟市）
勤行後おときがあります

【六月】

十三日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より
二十日（土）仏教文化講演会 於 アルフォーレ
*講師 星 貴氏（長岡戦災資料館アドバイザー）

二十二日（月）おでらヨガ 午前九時より

【七月】

五日（日）夏の法話会 午後一時半～四時頃

*講師 佐野 明弘 氏

（石川県加賀市光闘坊住持・大谷専修学院院長）

十四・十五日（日・月）盆参會（盆内）午前十時半～

*法話・勤行後、両日ともおときがあります

二十七日（月）おでらヨガ 午前九時より

【八月】

一日（日） 夏休みお楽しみ会（子ども会）午後四時～

十三～十六日（木～日） お盆

*十三日午前六時～勤行

十七日（月）おでらヨガ 午前九時より

☆真宗門徒の豆知識

御命日や仏事の際にお尋ねいただく「ちょっとした疑問」。これは皆さんも気になるのでは?ということでしばしばありますので共有します。

【お内仏に関する】質問アルアル

Q1、「朝はパン食なのですが、お仏供（お仏飯）はどうしましよう?」

A、まずは、「おそなえすること」の意味を考えてみましょう。

真宗門徒が仏様の前にご飯をおそなえするのは、亡き方の供養の為ではありません。もちろん、阿弥陀如来様やお淨土に還られたご先祖がお腹を空かせるからでもありません。

真宗のお莊嚴では、お供物やお花について、「お供え」ではなく「お備え」と書きます。自分が買おうが育てようが、それは大地の恩恵です。ですから、私が仏様に対してもそなえするのではなく、仏法の領域の物を「いただく」。これは真宗門徒がずっと大切にしてきた価値観です。そのことを「理解いただき、親鸞聖人や御先祖の御命日から、できる限りお願ひします。

Q2、「お花は生花でないといけませんか?」

A、花瓶のようなものが一種類あるかと思います。

①華瓶（けびょう）と②花瓶（かひん）で、用途が違います。

①華瓶は水用です。

お淨土の世界が清浄であることを表しているので、きれいな水と檻（しきみ）を挿します。檻にはその成分から水を腐らせない作用があるそうです。

②花瓶には生花を挿します。



7

【お茶飲み話の質問アルアル】

Q1、「お念珠の紐が切れてしまいました」

A、仏具店に持ち込めば念珠修理をしてもらいます。

男性が主に使われる組み紐のように編むタイプであれば、坊守・准坊守がお直しできますので、お気軽にご相談ください。女性用の房の付いたお念珠は、房の色のご希望をお聞きして念珠店に持ち込みます。二千～三千円程度で古いお念珠も甦りますので、直して使われることもおススメです。

もし、もう使うことはない…というお念珠は、有効に再利用させていただきますので、どうぞお持ちください。

Q2、「淨土真宗のお寺にはお釈迦様の仏像はいらないの? それでは、本堂のお莊嚴を確認してみましょう! 中心は真宗の御本尊・阿弥陀如来です。向かって右には親鸞聖人、左には蓮如上人、余間にはお正信心偈に出てくる七高僧と聖徳太子、逆の余間には歴代の法名軸。」



……とはいえ、塗りものであるお内仏の小さな花瓶に生花を生けるのは大変というお声も聞きます。豪華に飾る必要はありませんし、季節のお花をお内仏の前に置く等、工夫されてはいかがでしょうか。



お莊嚴が表しているのは、仏教の世界観であり、お釈迦様がはじめて言葉にしてくださった真実の教えの内容です。命ある生花はやがて枯れます。そのことが表しているのは、私たちの命が有限であること。そして、そんな有限の私たちにも教えに照らされ、深く感動する瞬間があるということです。

★当院の仏教名言集 第三十九回

禅語『梅開早春』

☆編集を終えて…

職場の良寛記念館では、よく「良寛の歌の特徴を教えてください」という質問を受けます。

良寛の歌について「和歌と歌謡のどちらに区分するか」という議論もありますが、重要であることは歌の中に仏様の教えが入っていることです。その説明が、なかなか難しいのです。その説明として、よく紹介しますのが「梅開早春」という禅語です。

「梅開早春」は「梅（花）、早春を開く」と読みます。私たちは、咲いた梅の花を見みて、春になつたことを認識できます。言い換えますと、私たちは、他のいのちの変化を見なければ、実にあいまいに生きているということもあります。では、そんな私たちに春の訪れを教えてくれる梅は、どうして春になつたことを知るのかと申しますと、梅は春そのものに呼ばれて花を咲かせるというのです。梅の花は小さなものです。ですが、その小さいのが、この世がいのちの繋がりの世界であることを開いているのです。

良寛も一羽の鳥の鳴き声や竹の子が地面から出てきたことなどを歌に取り入れ、この世がいのちの繋がりの世界であることを詠んでいます。良寛の有名な逸話に、床下から生えてきた竹の子を切らなかつたお話があります。良寛は、いのちの繋がりを絶ちたく無いと思つたからこそ、竹の子を切らなかつたのではないでしようか。

(当院)



8

☆連絡先 淨敬寺
〒945-0051
柏崎市東本町1-11-35
TEL:0257-22-2481
FAX:0257-22-2140

Mail :

住職 tomi814@kisnet.or.jp
当院 minipapa@kisnet.or.jp
晴香 jyoukyouji222481@gmail.com



8月13日
午前6時から

例年ならば年末法話会が年内最後の行事となるのですが、年末公開講演会の後に、二〇二五年の一年をかけて行われた十組の真宗講座の「歩み出しの会」、「十日には「淨敬寺推進員の集い」、最後に「おてらヨガ」と、何かと「集う」機会が多く、新型コロナウィルスの流行と共に、「集う」行事が一気に休止となつたことが随分昔のことになります。しかし、去年は「集う」が「集い」が、他者の中に生き生きと存在している言葉や感覚に出遇うことは、自分一人に閉じ籠りがちな私を開く貴重なご縁であつて、仏教の話を聞くことを縁として集うことのできる場の有り難さを思います。庫裡改修工事を終えて二度目の冬を迎えていますが、襖を外して広く使つても暖房効率よく、季節問わず皆様から活用していただけることを実感しています。